

「鉄と鋼」第100巻発行 ご挨拶

宮坂 明博

一般社団法人日本鉄鋼協会会長

「鉄と鋼」は日本鉄鋼協会が発足した1915年(大正4年)に第1巻を発行して以来、大正、昭和、平成とそれぞれの時代における我が国の最先端の鉄鋼技術に関する論文を掲載してきました。ここに「鉄と鋼」が記念すべき第100巻の発行を迎えたことは誠に喜ばしい限りです。

「鉄と鋼」の第1巻が発行された1915年は、官営八幡製鉄所の高炉が操業を開始した1901年から14年後、まさに我が国の鉄鋼業が始動した時代でした。第1巻に寄稿された報告によると、当時の世界の鉄鉄生産は7800万トン/年であり、その内米国が約40%の3100万トン/年、ドイツが1900万トン/年、我が国はまだ僅か24万トン/年でした。

日本鉄鋼協会はこのような状況の中、設立当初からその理念に「学理と実業の結合」を掲げ、産学連携こそ我が国の鉄鋼業の発展に欠くべからざるものであるとの立場に立ち、学協会活動を推進して参りました。取り分け「鉄と鋼」は産学の叡智を結集した学術誌として、鉄鋼技術の基礎と最先端技術を共有化することで産学連携の基盤構築に大きく貢献してきました。

関東大震災や第2次世界大戦等、「鉄と鋼」が欠号に追い込まれた時期を経て、戦後の高度経済成長に伴い、我が国の鉄鋼業は年間1億トン規模の粗鋼生産量に急速に発展しました。「鉄と鋼」はこの間の鉄鋼技術の進歩を収録した貴重な財産です。数多くの諸先輩をはじめ、会員の皆様のご尽力の賜物であり、深く感謝いたします。

私自身も、鉄鋼会社における一研究者として研究開発の成果を春と秋の講演大会で発表し、「鉄と鋼」に論文投稿することで、産学の第一線の研究者と技術論を戦わせて自らの技術を磨く貴重な機会を得るとともに、微力ながら我が国の鉄鋼技術の進歩発展に貢献すべく多くの研究者と切磋琢磨してきました。

「鉄と鋼」は鉄鋼技術に関する論文誌として国際的にも非常に高い水準を維持してきましたが、その陰には論文の査読に関わる地道な努力があることを忘れてはなりません。鉄鋼技術に携わる研究者が投稿された論文を真摯に査読し、学術誌としてのステータスを維持するという活動があってこそ、第一線の研究者が自らの論文を投稿したいと思うインセンティブに繋がっています。このような活動が我が国の鉄鋼技術に携わる鉄鋼技術者の文化、思想を醸成してきたと言っても過言ではないでしょう。

最近では、鉄鋼を取り巻く環境のグローバル化の進展に伴い、論文投稿先が「鉄と鋼」から「ISIJ International」へと変化しています。その中においても、「鉄と鋼」は和文誌という性格上、我が国の鉄鋼技術に関する文化、思想を共有化するための重要な使命を引き続き担っていると考えます。

最近の、特にアジア地域における鉄鋼生産と市場の急拡大に伴い、我が国鉄鋼業の国際競争力の維持強化は喫緊の課題です。我が国の鉄鋼技術力は世界的に最先端であると自負しておりますが、トップランナーの位置を将来に亘って維持していくためには、これまで誰も経験していない新たな課題に果敢に挑戦することが肝要です。新たな技術課題には全く解法が分からない難題も存在しますが、果敢に挑戦し続けることが我が国の鉄鋼業の未来を支えると信じています。技術的な難題に立ち向かうためにも「鉄と鋼」を通じて得られる我が国の鉄鋼技術の思想が大きな武器になると確信しています。

最近では「鉄と鋼」においても情報発信機能の強化としてフリーアクセス化や電子投稿・審査システムを導入し、その結果として論文投稿数も増加に転じております。新たな叡智を結集するために重要なことであり、大変心強く思っています。

「鉄と鋼」第100巻の発行を起点として、心を新たに会員全員で将来の課題に果敢に挑戦することを祈念して、ご挨拶といたします。